

突撃取材 in 第42回東京モーターサイクルショー

取材日：2015年3月29日(日)
(東京ビッグサイト 西1・2ホール)



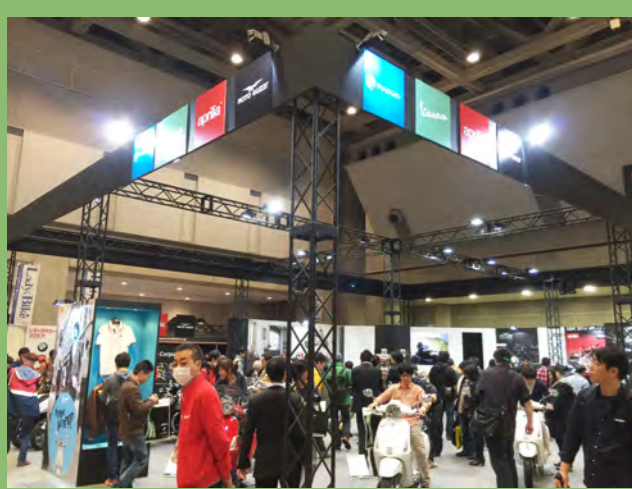
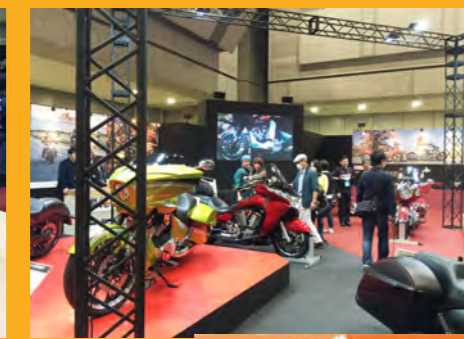
国内最大級のモーターサイクルイベント「第42回東京モーターサイクルショー」が今年も3月27日(金)～29日(日)までの3日間、東京ビッグサイトで盛大に開催されました。今年は、未来のライダーになる若年層へのアピールに重点を置き、ビギナー試乗会、トライアルデモンストレーションなど女性や子供も楽しめるイベントが多数行われていました。バイク好きな人にとっては、最新のモデルや普段は見ることの出来ない貴重なレア車、高級な海外メーカー車、レースマシンなど、憧れのバイクが500台以上も展示された魅力一杯の展示会となっていました。昨年は、あいにく天気に恵まれませんでしたでしたが、今年は天気も良く、過去最高の来場者を記録した昨年を約18,000人上回る132,249人が来場されました。弊社でも3つのクライアントのブースで担当者が対応に追われる毎日でした。

←インディアン/ヴィクトリー・ブース

Indian Scoutを購入したことで話題の女性タレント「ちばる」さんと、オートバイによるアメリカ大陸横断経験を持つバイク好き俳優「近藤スバ太郎」さんによるスペシャルトークショーを実施していました。

JAF・ブース→

JAFのバイク救援の紹介やアンケートプレゼント、「子ども安全免許証」の発行、ゲームなどを実施していました。子ども安全免許証は、どこで実施しても子供たちには大人気のようにです。



←ピアaggio・ブース

今回のブースではミラノEICMAショーでのピアaggioブースのイメージを再現して、aprilia、MOTO GUZZI、Vespa、PIAGGIOの4ブランドの展示を実施していました。

TOMOKO'S Recommendation music !!



今月初め、22日に発売する新作アルバムのプロモーションのため来日した、Mew(ミュウ)のApple Store 表参道店での無料アコースティック・ライブに行ってきた。ワンマンライブでさえ売切れるのに無料となると当然店内はすし詰め状態。幸いにも予約が取れたので、かろうじてメンバーは見えたが終始爪先立ちでのライブ鑑賞となりました。Mewはデンマーク出身の4人組オルタナティブ・ロックバンド。緻密で複雑な音に透き通る天使のようなハイトーン・ヴォイス。北欧らしい美しさの中にある暗さや儚さを併せ持つ独自の世界観が強いバンドです。私のおススメは1stの「Frangers」。彼らの代表作でありロックの名盤です。(でもMewって聞いていると眠くなるなあ。)という方には8月のSummer Sonic'15に出演するのは是非ライブを見て欲しい! 実際は内向的では無く、むしろタフで骨太な音がかっこ良いライブバンドなのです!! 9割方屋内ステージであろうと予想されますが夏のイメージがないMewを真夏に見る...これは今から楽しみです♪

ご意見・ご感想は adtain@adproject.co.jp まで メールでお寄せください。
発行：株式会社エーディープロジェクト 〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-27-4 www.adproject.co.jp

facebook adproject 公式 facebook を check してください。
adproject がお届けするエンターテインメント情報を随時UP!!

皆様の いいね! をお待ちしております。

facebook adproject 検索

もしくは、<https://www.facebook.com/adproject.japan>



2015 vol.035

4

Legend

第16回 美意識 ⑬ ～美国主義～



ゼネラルプロデューサー 榎垣 俊幸

■心機一転

桜が散り、新しい年度となり、人々は次のシーズンへ心を躍らせて進んでいます。人生とは、時の流れです。それは映画の一コマの様であり、父や母の一コマから、息子や娘、さらには孫へと送られる時の流れであります。その中で、全ての事柄は過去と成り忘却の彷徨に消え去って行きます。ならば映つてくるコマの有り方を、出来るだけ「美しく」映し出そうではありませんか。この「美しさ」が人々に感動と豊かな残像 (illusion) を残します。この美意識の基に生きる事、全てを「それは美しい。」のか? と自問自答する検証や、全てを価値判断にする勇気と決断が美意識なのです。良い事、悪い事、あるべき姿、目指すべき方向などそれが美しい姿を残すのか? と問う事で正しいコマを創造します。そして、将来において、孫子の代においてもつづまの合う世界を創り出します。

戦後の復興において、この価値への自問自答をしなかった事が、今日のつづまの合わない醜い世界を生み出して来ました。そして、資本の論理の正当性を押し付けて来ました。このまま行くと「人々の心」まで弱肉強食の勝ち組優先の評価が価値基準となり、知性の無い競争社会が生れ格差社会など、美しくない社会が生まれます。資本主義社会の矛盾が覇権主義を持って応急処置される社会が生れて来ます。私達のADも、何を持って社会の一員とし尊敬される「美しさ」を持っているかが存在継続価値となります。そうです。人も会社も社会も「美しく生きる」為の因子 (solution) であるポジティブ・マインドの拡張を命題として活動する事「バージョン3」が存続理由なのです。創設期ではエンターテインメントの拡張、導入期にはポジティブ・マインドの拡張に移り、拡張期は美意識の訴求をコア・コンピタンスとして活動のバージョン・アップを図る事が、時代が私達の訴求する活動命題なのです。各位の心機一転を図ってください。

■生活基地

代々木に移った新社屋は、皆さんの暮らしの時間の半分を過ごす居住空間です。この事務所は「ワン・ワールド」を実感でき、情報共有化が実感できる戦略基地なのです。

EDGE Positive mind



adproject-entertain newspaper

adtain

モデル：SVETA / Height:172cm B:86 W:60 H:88
事務所：ARTRICK ENTERTAINMENT (アートリック) <http://artrick.com>

adtainとは、adprojectとentertainが融合した「おもてなし」のトピックス誌

パーマネント・コンセプトは「最先端」「美的創造」です。「更に世界が実感できる」がグローバル・インスピレーションの想起テーマでもあります。言い換えれば、「adprojectへ行けば新しい価値が発見できる。」と言われるような基地づくりが大切です。これまでの一歩前への精神から、想像を絶する価値の提案、美的価値の創造へと変身してください。これまでのサービス概念から様々なプロトコールを発信する基地化する事を目指してください。全ての暮らしに、上記の事を憲法としてルール化し、各階の本部は、活動の更新を図ってください。また、プロになる為の組織である自己実現企業である事は変わりありません。これらのフィロソフィー精神が実行される為の投資は厭いません。皆さんとお客様の笑顔が、この命題を加速化します。その為には、情報の敏速な収集システム化とポジティブ加工化が大切です。正解のない過剰情報化時代に向かう新社会を、美的創造社会に誘う活動組織になる為にも健闘を祈る。

■面白さを知る。

自分を鼓舞する楽しさを知る事はどんな仕事

に於いても大切です。それは自己実現への近道でもあります。私達の仕事は、必ず見る人や感じる人のいる業務です。一義的にはクライアントと称する皆様、その向うにゲストと称するお客様がいます。このクライアントとゲストの立場が異なる二つのターゲットに対して、満足する価値を創造する事も大切な役割です。その為には異なる二つの価値をコラボレーションしてワン・ワールドな価値を生み出す事です。その為の接着剤となる為にも楽しさの視点を研究する体質づくりが大切です。それは、自分の夢を自己実現する為にも大切な基礎教養なのです。楽しさを知るには視点を変えてみる研究心や好奇心が重要です。adprojectの新社屋では、これまでの事務所から戦略基地としての情報収集発信機能を持たせる為の様々なテクニカル投資を行い、より新鮮な価値の創造を行います。今後は皆さんのIDを大切に、いつでも、どこでも、最先端戦略情報を受信できる基地として育てて行きます。その為には、皆さんも自己の基礎スキル向上に向かって邁進してください。



PRODUCER：秋葉 悠介 〇

■Event：東京モーターサイクルショー

■Date：2015年3月27(金)～29日(日)

■Place：東京ビッグサイト

桜も満開を迎え、絶好のツーリング日和になりましたね。私事です、最近“速い自転車”に乗り始めました。いわゆる競輪選手が乗っているピストという乗り物です。「健康」「節約」あたりをキーワードに、満員電車に乗るより快適、ドア・ツー・ドアなら電車より早いなどのメリットで自転車通勤する人が増え、首都圏では震災以降自転車の購入率が高まりました。ただ、自転車ブームに比例して乗り手のモラルが問われています。今年度から自転車運転免許証制度がはじまり、違反があれば車の免許証と同じく持ち点が減点され、罰金も科されるとか…。自転車衝突事故で死亡者も出るくらいの乗り物ですから自転車免許証があってもおかしくありませんね。安全に気を付けて乗りたいです。

さて、二輪は二輪でもバイクの話になりますが、3月に開催されたアジア最大級のオートバイの祭典『東京モーターサイクルショー』のJAFブースの担当をさせていただきました。『ハッピーバイク!』をテーマにモーターサイクルジャーナリストのケニー佐川氏によるトークステージや、映画のワンシーンをイメージしたVespaに乗って記念撮影コーナーなどを展開し、バイク好きの来場者で大いに盛り上がりました。トークステージではライディングテクニック編として実際に公道を走る際に気をつけたい点や、危険を回避する為のテクニックを紹介し、参加者の多くがうなずきながら聞き入っていました。やはり生身の体で運転するわけですから、ライダーの危険に関する意識は高いですね。

実際に2005年にJAFロードサービス対象車種にバイクが加わって以来、バイクに対するロードサービス実施件数は年々増加しています。安心してバイクライフを楽しんでいただく為、JAFブースでは1枚の会員証があればクルマもバイクもロードサービスが受けられることをPRしているのですが、まだまだご存知でない方がいらっしゃるのもイベントを通しての感想です。ただ、JAF会員は個人に所属することを伝えると、お客様の反応はとて前向きで「知らなかった!」「詳しく知りたい」というお声をいただきます。まだ、JAFに入会されていないそのあなた!万が一の備えだけではありません。全国約34,000カ所以上の優待施設で割引が受けられます。

Project 1.



▲最終日スタッフ集合写真



▲愛車：FUJI / Feather



▲トークステージ



▲記念撮影コーナー

UCC Coffee Masters 全国大会 出場者 決定!!

全国から強者 36名が神戸に集合!!

EXECUTIVE PRODUCER：平田 元春

2月初旬福岡の九州地区大会から、3月後半札幌の北海道地区大会まで2ヶ月間に渡り全国6地区で予選を開催して参りました。「Espresso」「Siphon」「Paper Drip」「Latte Art」の4種目を270名強の出場者で競い、各種目各地区の優勝者が地区代表6名と全国総合上位4名の合計10名が決勝に出場、「Latte Art」のみ地区代表6名のみで総計36名が決勝に進出です。本年は10回目の記念大会です。第1回より運営をしてきたので感無量です。決勝の会場は、神戸駅のすぐ横で観光名所のハーランド入口の「スペースシアター」イベント広場です。そのB1Fで、6階吹き抜けの広場で大画面の有るスペースです。開催は、2015年5月16日・17日の2日間ですので、お誘い合わせの上、是非見に来て下さい。世界・日本チャンピオンの美味なコーヒーも飲むことが出来ますよ!

Producer's column コラ

Espresso

Latte Art

Siphon

Paper Drip

昨年決勝風景



浦山 善明

■Event：ジャパン・クラシック・オートモビル2015

■Date：2015年4月5日(日)

■Place：日本銀行本店本館前庭、江戸桜通り、日本橋橋上

五街道の基点である「日本橋」は、江戸時代から人・物・文化の交流の中心を担い、交通の発達とともに進化を続けて参りました。その「日本橋」の架橋104周年を祝い、人々の移動とともに文化を支え、同じ時代を生き続ける世界中の希少なクラシックカーを、「日本橋」に展示する『ジャパン・クラシック・オートモビル2015』の運営管理に携わりました。毎年、日本橋が造られた4月3日に一番近い週末に開催され、2010年から始まり、今年で6回目を迎える日本橋の春の風物詩となった本イベントは、桜咲き誇る中、歴史的街並みの「日本橋」にクラシックカーが集い、年に一度、街中が100年前にタイムスリップしたかのような気分を味わうことができます。

生憎、今年は天候に恵まれず雨となり、それに伴い当日リタイアしてしまう車両も何台か出てしまうというコンディションでしたが、ご来場頂いたお客様からは「雨もまた風流なものですな」とか「ボンネットの桜の花びらが綺麗」とお声をかけて頂き、「江戸の粋」を楽しむ心気意に逆に励まされました。また、中には50年振りに再会を果たされた方もいらっしゃる、数多くの方々の「出逢い」や「再会」の重要な機会ともなったようでした。

このように「ジャパン・クラシック・オートモビル」が、単なるクラシックカー鑑賞の場以上の役割を果たしているのも、「日本橋」というロケーションだからだと感じます。皆様も、来年は是非この非日常の世界を味わいに、「日本橋」に足をお運びくださいませ!来年も、一スタッフとしてイベントを盛り立てていきたいと思っております!!



PRODUCER：須田 潤一

■Event：トリックアートが出現!

■Date：2015年3月21日(土)

■Place：品川駅構内

標題は、弊社の重要なクライアントであるJR東日本ウォータービジネス様の商品『FROM AQUA』リニューアルパッケージのPR活動の一環として実施させて頂きました。

新しいパッケージは、FROM AQUAの源の群馬県谷川岳の新鮮な水を強く打ち出したデザインに変更となり、それに伴いNEWパッケージの訴求と、新鮮な谷川岳の水を伝えられるイベントプロモーションを検討させて頂き形になったのが、このトリックアートです。扉を開くと、谷川岳の豊富な水源が溢れ出てくる設定です。駅ナカだというのに、年配の方も含め、とても多くの方に参加していただき、思い思いのスタイルで写真を撮影されていました。皆様とても楽しんでいただけている様子が印象的でした。

また、その場でTwitterやFacebookなどのSNSに投稿して頂いた方には、ガラポンチャンスがあり、acure made というブランドコンセプトをもったシリーズ飲料の詰め合わせが当たる抽選会も実施し、大変盛り上がりしました。

今回、初めて制作したトリックアートですが、非常にイベントツールとしてのポテンシャルを感じました。SNS中心にいろいろな情報が拡散する環境で現場のリアルと楽しさ、商品価値を拡散させる活用が可能と感じました。単一イベントではなく、イベントから広がりを持たせることができる企画を今後も提案したいと思っております。



Project 3.



PRESIDENT：榎垣 俊吾

adprojectは神保町より移転をし、渋谷区代々木での営業は4月20日(月)から開始しております。これまで同様変わらぬご支援を心よりお願い申し上げます。

さて先日、移転直前に地元の鳩森八幡神社の宮司に御祈禱をしていただいた。近ごろ忘れていた日本人の心を思い出した約30分の式であった。実はこの代々木の地は、幼少期(中学2年まで)に住み遊びまわっていた街であり、偶然にもまたこの街に関わりを持ってたことに嬉しく思う。考えると25年以上も前のことになるが、街並みは大きく変わっていないことに驚く。移転先ビルもその頃からあるビルだが、意外にそんな建物が多いエリアなのかもしれない。そのような、そこそ古いビルをリノベーションし、adprojectの新しいホームグラウンドとしてスタートをした。工事を進めると、いろいろな課題や、やりたいことも多く出てくるのだが、まずは出来ることから始め、長い目を持ってこのビルと付き合っていくと思う。adprojectの新たなチャレンジと魅力にご期待ください!



冬→春

前山 椋 (第4プロジェクト)



- 皆様、お世話になっております前山椋です。入社してから早3ヶ月が経ちました。
- バイト含め、8年間自分の居た接客業という慣れ親しんだステージから飛び出しやってきた訳ですが、一言で言えば楽しいです。社会経験も少なく一般常識もままならない未熟過ぎる自分には、得られた知識、経験が多く毎日豪華バイキングにきている気分です。(笑)
- 皆様、毎度ご指導頂き本当にありがとうございます。
- そんな私にも夢があります。早く仕事をガンガン回せるようになり、私の生涯パートナーとも言えるであろうコココーラ社とお取引して、会社にコーラサーバーを設置する事です!!
- ペプシでもメッツでもありません、コココーラ社のコーラでなければいけないのです。
- 割とポップな夢に見えるかもしれませんが、結構真剣です。(笑)
- そんな自分も含め、沢山の会社や大勢の人の様々な夢を、より面白く形に出来る仕事に就けば本当に面白いな～と感じている4ヶ月目です。
- まだまだご迷惑をお掛けすることが多いと思いますが、野望達成の第一歩の為にも早くお客様や先輩方の「最強の右腕」となれるよう頑張ります。

Project 2.

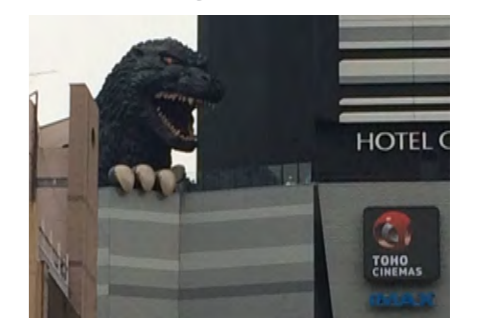
Project 4.

PRODUCER：岩下 信而

■Event：ただいま新宿



高円寺生まれで、今でも住んでいるぼくにとって、(出待ちしないでね♡)新宿は今も昔も一番近い遊び場、公園のような存在である。今でこそ、ファストファッションや居酒屋ビルが隣接してしまっただが、杉並区民にとって新宿伊勢丹に行くのは永遠のハレの場である。子供のころは荻窪、新宿間に路面電車が走っていた。それに揺られながら母親と伊勢丹に行き、中村屋でカレーを食べ、紀伊國屋で本を買うのが楽しみであった。学生時代は、好きな映画監督や女優を追いかけ、三鷹や五反田の3本立ての映画館に通い詰めたが、新作を観るときは、個性派作品の新宿武蔵野館や、スカラ座、ミラノ座であった。そして音楽は吉祥寺、服を買うのは青山、みんなで遊びに行くのは六本木(何故かカティサーク飲み放題が多かった)だったが、最後は新宿。ゴールデン街の気仙沼のママに夜毎サンマをご馳走になり、ノンケでも入れてくれる2丁目のオカマを冷やし、文壇、劇団の垢場「池林房」やジャズピアノと耐ハイの店「はがぼんど」やで呑んでくれた。因みに名物マスターの松岡さんは亡くなったけど店は健在。故人といえば鬼才芸人マルセ太郎さんに遊んでいただいたのも新宿だった。晩年マスコミにも取り上げられた、「泥の河」やフェリーニの「道」を上演時間と同じ長さで再現する話芸を、夜な夜な酒場で惜しげもなく披露してくれた。銀座、赤坂で遊び足りなくて六本木で騒ぎ、最後にたどり着くのが新宿だそう。アフターで袖にされた男に絡まれ、客の機嫌取りでズタボロのホステスやキャバ嬢の愚痴を聞く街新宿。奥が深いでしょ。そんな街新宿に、この4月から帰ってきます。どんな出会いや体験が待っているのかな?そして、その3日前に古巣東宝がゴジラを引き連れ歌舞伎町に帰ってくるのも何かの縁かも。とこの誘惑に弱いぼくは、家から会社まで無事にたどり着けるのか、また会社を出たらいったいどこに足が向くのか、全く確信がもてません。では次号 Ciao!



JAZZと耐ハイ、西口「はがぼんど」



笑いが取れるまで舞台を降りない 関係者泣かせたけど真の芸人



ワインはMARGOより、末広通りピストロ「向日葵」